

日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会
第24期第1回会議・議事録

日時 : 平成30年3月14日(水) 13:00~15:00

場所 : 日本学術会議5階5-A(1)会議室

出席者(敬称略): 三村徹郎、岸本健雄、窪川かおる、竹内俊郎、西田宏記、萩原篤志、原田尚美、堀利栄、渡部終五

欠席者(敬称略): 武内洋幸、大路樹生、川井浩史、白山義久、長里千香子、中田薫

議題

(1) 役員を選出

世話役の三村徹郎第二部会員のリードで会議が開始され、第24期の委員長に窪川連携会員が推薦、承認された。続いて今期の役員が以下の通り推薦され、承認された。副会長: 川井連携会員、幹事: 萩原、原田連携会員

(2) 第24期海洋生物学分科会の活動方針について

(資料1、2、3、4、5、6、7)

前回(第23期第8回)会議議事録(資料1)を基に、前期の活動の説明が委員長よりあった。続いて、今期、どのような活動が期待されているのか議論された。具体的には臨海・水産実験所の現状、次世代育成、学術会議大型研究計画、シンポジウム開催、海洋生物学を取り巻く国内外共通の課題(海洋環境、海洋生物資源、生物多様性)や動向(国連開発計画SDGsなど)についてである。以下のような意見が出された

- 全国の臨海・水産実験所を取り巻く運営費交付金が大きく縮減されている。研究、教育に加えて地元社会への貢献活動(地元の次世代育成の視点のみ)など限られた人員で対応している現状がある。
- 小中高の副教材の充実や教科書の改訂に学術会議からの提言等があっても良いのではないか。
- 学術会議大型研究計画については、これまで水産学分科会などと連携しながらマスタープラン2014、2017に合わせて第二部会へ提出してきた。引き続きマスタープラン2020へ向けた準備をしていくのが良いだろう。各部会間の壁を乗り越えた連携も重要と思われる。
- シンポジウム、海洋環境、海洋生物資源、生物多様性の課題と世界の動向について、国連のSustainable Development GoalsのNo.14 Life below waterについてどう取り組むか、個々の機関に閉じてしまうとall Japan体制は見えてこないの、この分科会が取りまとめ役となり提言などを作ることもできる。その一方で、個々に取り組んでいるものをコンソーシアムのような全体からの提案としてまとめて国に提案しようとしても国の方で受け止める枠組みがない。
- 第24期ではまずは期限の差し迫っている学術会議大型研究計画並びに世界共通の課題として取り組まれているSDGsに注力することとしたい。

(3) 自然史博物館について

岸本委員より一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会の設立経緯と活動についての報告があった。質疑応答の後に、当分科会は引き続き動向を見守り必要があれば協力することが確認された。

(4) その他

次回は6月中に開催する。

配布資料

- 資料1 (第23期第8回) 会議議事録
- 資料2 海洋生物学分科会の活動整理
- 資料3 国立大学臨海実験所等の再編に関する提言
- 資料4 初等中等教育における海洋教育の意義と課題
- 資料5 大型研究計画マスタープラン2017に提出した課題概要「海洋バイオフロンティア研究ネットワークの構築—海洋に潜む生命機能の解明—」
- 資料6 日本学術会議公開シンポジウム「海洋生物学の未来社会への貢献」案内
- 資料7 第33回国際生物学記念シンポジウム「海洋生物学が未来を切り開く」案内
- 資料8 一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会資料